

2024年度公開科目（クラス授業）のご案内

※やむを得ない事情により、急遽、休講になる場合があります。

◆声楽関係

歌曲演習Ⅱ	各歌曲のさらに新しい時代の作品を多く取り上げ歌唱実践しながら、より作品にふさわしい歌唱法を見出し、豊かな歌唱表現を目指します。
イタリア語ディクシオンⅡⅣ	イタリアの歌曲やオペラを歌う上で必須の発音を学び、朗読を実践しアナリーゼと共に歌唱法を研究することで、発音の質を高めます。
ドイツ語ディクシオンⅡ	日常の会話体と舞台ドイツ語の発音の違いを知り、音符の上に乗せたときの母音や子音の処理の仕方を、リズム唱や歌唱を通して習得します。
オペラ演習Ⅱ	モーツァルトのオペラ作品をはじめ様々なオペラの場面を、簡単な小道具等を使用し、実際に歌い演ずることを通してオペラの表現法を学びます。
ミュージカル演習Ⅳ	ミュージカル・コースの科目。ミュージカル作品の舞台公演に向けて、ミュージカルの音楽・演技表現・芝居の基礎要素をより深めて学びます。
リズムヴォーカルⅡ	音楽の多様性を理解するために、4 beat、8 beat、16beatなどの基本的なリズムのグルーブと、それぞれのジャンルの基礎的歌唱法を体験し、学習します。

◆鍵盤楽器関係

鍵盤楽器講義（楽曲分析概論）	鍵盤楽器専修1年生の必修科目。作曲者の意図を読み取り、解釈による演奏の違いなどを吟味、比較しながら、様式感のある生き活きとした演奏表現に活かすことを目指します。
鍵盤楽器講義（ピアノ教材研究概論）	鍵盤楽器専修2年生の必修科目。各国の代表的なピアノ教材を研究し、歴史的背景・教育理念、特色などを検証する能力を養い、ピアノ指導の実践に向けて知識を身につけます。
鍵盤楽器講義（鍵盤楽器学）	鍵盤楽器専修1年生の必修科目。各時代固有の楽器の特性、奏法、演奏実践等に触れ、鍵盤楽器全般の基礎的な知識を身につけます。
鍵盤楽器作品分析Ⅱ	ロマン派から20世紀の鍵盤作品の理解を深めることで、より豊かな演奏を目指します。
オルガン研究Ⅱ	オルガン作品の様式別（時代・地域）に、奏法及びレジストレーションの知識を得ます。ヨーロッパ各地の歴史的オルガンを紹介し、楽器と作品の関連性を研究します。
歴史的ピアノ基礎講座B	18世紀末～19世紀前半に生み出された楽曲を、当時の楽器（レプリカ）2台を使用し、その時代に固有の楽器の特性、奏法、演奏実践の基礎を学びます。

◆弦管打楽器関係

室内楽B（ピアノを含む室内楽）	室内楽の基礎を学び、より高度なアンサンブルを研究します。ピアノを含む室内楽作品について、各パートの役割をより深く理解し、作品全体を立体的に捉えて演奏することを目指します。
室内楽B・D（弦楽四重奏）	室内楽の基礎を学び、より高度なアンサンブルを研究します。弦楽四重奏の実習を通して、アンサンブルの基礎を習得しながら、さらに発展の可能性を探ります。
室内楽B・D（金管五重奏）	室内楽の基礎を学び、より高度なアンサンブルを研究します。金管五重奏および金管を含む室内楽曲の基本的なレパートリーを修得します。

◆ジャズ関係

即興演奏Ⅳ	ジャズ専修2年生の必修科目。ジャズ・インプロヴィゼーションをするためのスキルを基にセッション形式で実践します。
-------	---

◆作曲、コンピュータ音楽関係（ソルフェージュ、楽器製作・音響を含む）

実用音楽ゼミⅡ	実用音楽コースの必修科目。ポピュラー音楽の実践的な編曲法をスタイル別に学び、編曲を行える能力を身につけます。
実用音楽研究Ⅱ	実用音楽コースの必修科目。サウンドトラックの模擬制作を通じて映画音楽作曲技術を周辺から学び理解します。
マルチメディア・プログラミングⅡ	作品のアイデアを表現として具現化するプロセスの実践を通し、創作に必要とされるソフトウェア開発技術を修得します。

◆音楽情報、音楽療法関係（音楽情報・社会、マネージメント、西洋古楽、日本伝統音楽を含む）

日本伝統音楽表現（箏）Ⅱ	箏という楽器に関する歴史を学び、基本的な奏法を正しく身につけます。
日本伝統音楽演奏研究（箏）ⅡⅣ	西洋音楽と異なる邦楽を理解し、演奏技術と能力を高めて、箏の演奏家、及び指導者を目指します。洋楽と邦楽の共通点、相違点を認識して、柔軟に両者を吸収し、表現出来るようになります。
楽器学概説C	20世紀から21世紀にかけての急速な社会の変化の中で、世界各地の楽器がどのような過程を経て現在に至っているのかを学びます。
音楽情報を読み解くⅡ	音楽についての的確な情報を選び取り、その内容を正確に読み解いて、他者に明確に伝えられるようになることを目指します。

◆音楽教育、幼児音楽教育関係（教職科目を含む）

教職概論	教職科目（教員免許取得のための科目）。学校教育や学校教育を取り巻く現状、現代の教育課題等について基礎的な理解を深めます。
道徳指導論	教職科目（教員免許取得のための科目）。道徳の意義や原理等を踏まえ、道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解します。
学校教育専門演習A	教員採用試験対策として、初見視唱・視奏、伴奏付け、弾き歌いの基礎的な知識・技能や豊かな音楽表現を身につけます。
音楽科教育法Ⅳ	教職科目。教育上のねらいや目的をもった授業や、多様な教材と学習活動、教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習指導の改善と工夫について研究・学習し、授業実践力を高めます。
教育社会学	子どもを取り巻く問題（学校を巡る近年の様々な状況の変化）を探り、多角的に捉えながら分析します。また、教育が時代や社会に規定されると同時に、時代や社会を規定していくことを理解します。
教育課程概説	学習指導要領の意義とその内容について理解します。学校における教育課程の位置付けやその機能的役割について例を挙げて説明し、カリキュラム・マネジメントに必要な基本的な知識を習得します。
音楽教育演習（即興演奏法）Ⅱ	幼児の豊かな音楽表現を引き出すことのできる、様々な音楽の諸要素を取り入れた即興演奏能力と、幼児の多様な即興表現に呼応する応用力を身につけます。
保育内容「言葉」の指導法	幼児の言葉を取り巻く現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。

◆基礎科目

音楽概論B	基礎課程の必修科目。西洋音楽の専門的学習に必要な用語や概念を、歴史的背景や実例に即しながら理解できるようになるための授業です。
教育メディア論	基礎課程の必修科目。ICT（情報通信技術）や各種メディアを活用し、情報・メディアリテラシーの基礎的な知識と技能を身につけます。

◆教養科目

建築の世界B	現代建築を取り巻く様々な状況を理解する上で、必要な知識を習得し、建築作品を読み解くまなざしを獲得します。
青年の発達と心理	青年期の発達の特性、青年期の発達に基づいた心理の特性について理解します。青年期の発達と心理に関する個人的・共同的な学習に主体的に参加できるようになります。

◆外国語科目

外国語コミュニケーション（英語/ドイツ語/イタリア語/フランス語）Ⅳ	基礎課程の必修科目。各言語の「読む・書く・聞く・話す」力を身につけ、コミュニケーションできる能力を養います。
英語上級（進学）B	リーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身につけます。
ドイツ語中級（会話）B	ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースで、実践的なコミュニケーション能力の習得をめざします。
ドイツ語会話上級B	ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」の練習を通して、日常会話を理解し、会話する能力を身につけます。
イタリア語上級（文法）B	これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解したり味わうことができるようになることを目標としています。
言語と文化（フランス語）B	映像や資料によりフランスの文化と社会のあり方について様々な角度から考察します。日本文化との比較やグローバリズムなどの観点からも考えてみることで、より広い視野も養います。